

終章

本報告書の作成にあたっては、大学基準協会の示す10の大学基準に沿って点検・評価を行った。

内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織である「自己評価総合委員会」は、自己点検・評価の実施方針を策定し、学部・研究科及び部局は関連する大学基準について点検・評価を行った。個別の点検・評価の結果は、「自己評価総合委員会」において、全学的な観点から点検・評価を行い、大学校務執行の推進・管理を行う組織「大学評議会」が改善指示を行った。点検・評価に基づき改善・向上した事例として、大学院の研究指導計画書の運用変更が挙げられる。従前の大学院の研究指導計画書は、学生若しくは指導教員の一方のみが作成する運用であったが、学生・指導教員の双方向で作成するよう全学的に運用変更を行った。これにより、学生・指導教員が共通認識をもって研究活動を進められるよう改善された。以上、本学の諸活動について点検・評価を大学自らが行い、その結果をもととして改善を行うことで本学の教育研究の質を保証する内部質保証の原則が満たされていると判断した。

また、自己点検・評価の客観性・妥当性を担保するため、「東京電機大学外部評価規程」に基づき、学外有識者による外部評価を実施した。外部評価では、本学の取り組みについて、内部質保証システムが適切に機能しているか、大学の理念・目的に基づき特色ある教育・研究・社会貢献活動が行われているかを検証することを目的に実施し、外部有識者から今後の指針となるような建設的な意見や提言があった。外部評価の結果を受けて、「自己評価総合委員会」では、2022（令和4）年度中に速やかに対応すべき事項を設定し、関連する部局に対して改善指示を行い、迅速に対応した。本学が社会の一員として責任ある立場より、教育研究の質が一定以上の水準にあることを保証するためにも、これからも内部質保証、そして外部評価の両輪を回していき、対外的にその結果を公開していく。

今後、2024（令和6）年度から2028（令和10）年度までの5年間を目途とする新たな学園中期計画の策定を予定している。本学としては、更なる教育研究の質向上を目指すべく、2024（令和6）年度より学習成果の可視化の一つとして設定しているアセスメント科目の開講等学修成果の可視化・保証、大学院のカリキュラム改編を予定している。これらの新たな取り組みに関しても、今回の自己点検・評価及び外部評価を踏まえ、全学的に改善・向上に向けて自己点検・評価に取り組む予定である。

今後も大学自身が恒常的に自己点検・評価活動を行うとともに、一層の教育改善・教育の質的向上に取り組む所存である。